

ECO-FRIENDLY INTERVIEW No.5

私たちが支援する地域電力の1つ、岩手県陸前高田市の地域電力会社「陸前高田しみんエネルギー株式会社」に新しい仲間が加わりました。今までのいろいろな経験をもとに、日々奮闘している大林孝典さんにインタビューしました。



陸前高田しみんエネルギー株式会社
企画部 大林 孝典さん

支え合いの
仕組みと文化を
つくりたい



⇒今まではどんなお仕事をされてきましたか？

高校時代から人の助けになる仕事がしたいという思いがありJICA(国際協力機構)に入社しました。

入社して5年間は海外協力隊の管理、運営を行い、最後の3年間はアフリカ・タンザニアに駐在しました。その後、陸前高田市役所に転職し、現在は地域貢献活動を推進するため、電力会社の陸前高田しみんエネルギー株式会社で働いています。

ECO-FRIENDLY INTERVIEW No.5



〈JICA時代の大林さんとタンザニアの子どもたち〉

⇒JICAではどんなお仕事をされましたか？

JICAは開発途上国の現地の需要に合わせて教育、医療、土木、農業やインフラなどの分野で支援を計画実行している組織です。入社して約5年間は海外協力隊事業や水分野のインフラ事業の企画・運営を行っていました。その後はアフリカのタンザニアに駐在しました。タンザニアでは水分野のインフラ整備や地方行政支援などのプロジェクトに携わっていました。JICA職員の滞在期間は約3年間で勤務交代になります。

しかし、プロジェクトの原資は国の予算を使ってする仕事なので、計画から実施までは様々なプロセスがあり時間がかかります。3年間という限られた時間の中で、自分が携わったプロジェクトの成果を見届けることは難しい環境でした。

ECO-FRIENDLY INTERVIEW No.5



〈シンガポールで陸前高田市の物産PRをする村上清さん(左)と大林さん(右)〉

⇒どうして陸前高田市で働こうと思ったんですか？

タンザニアでは水分野のインフラ整備などのプロジェクトに携わっていました。計画から実施までは様々なプロセスがあり、滞在期間の3年間で成果を見届けることは難しい環境でした。仕事をする中で、10年以上にわたり現地で支援活動されてる方と出会い、長い時間をかけて結果を出す姿をみて、私も地域に根差して、支援は最後までやり遂げたいと考えるようになっていました。そんな中、学生時代にお世話になった陸前高田市の復興が道半ばということを知り、「腰を据えて復興の力になりたい、ここで働こう」と決心しました。

⇒陸前高田市役所ではどんなお仕事をされましたか？

当初は、海外勤務経験があったため、インバウンドの受け入れ態勢の構築や物産などのプロモーション企画を行っていました。

その後、陸前高田市長の秘書や新しいプロジェクトの立ち上げを担当しました。その新しいプロジェクトの1つに電力の地産地消を目指すため、「地域電力会社の立ち上げ」があり、陸前高田しみんエネルギー株式会社の設立にも関わりました。

ECO-FRIENDLY INTERVIEW No.5

⇒どうして陸前高田しみんエネルギー株式会社で働こうと思ったのですか？

市役所で新しいプロジェクトを提案すると、最後は誰が実行するのかが問題に当たります。私は本当に地域のことを考えるなら、プロジェクトを提案するだけでは前に進まないと考えています。陸前高田しみんエネルギーの立ち上げに関わった時、この地域電力会社は陸前高田市に必要で、誰かが運営し続けなければならないと感じました。その思いをカタチにするため、提案する「プランナー」から現場で働く「プレイヤー」になるため、働く事を決めました。



グリーンスローモビリティと
陸前高田市イメージキャラクターの
“たかたのゆめちゃん”

⇒大林さんの夢・目標について教えてください。

私は「支え合いの仕組みと文化」をつくりたいと考えています。そのためには陸前高田しみんエネルギー株式会社地域を思う方々からお預かりした電気代でしっかりと地域貢献を行い、選ばれ続ける電力会社になることが重要です。2020年は売り上げの1部を利用して地域貢献活動を公募し、選ばれた活動を実施の助成金付与の企画や、市内を走行する「グリーンスローモビリティ」という電気バスの実証試運転をしました。実証中は、多くの方に乗車して頂き、車に乗れない高齢者の方やゆっくり観光したい方にとっても好評で皆様に喜んで頂けてとても嬉しかったです。

地域の人助けになり、笑顔になれるような取り組みを1つ1つ行うことで、みんなが支え合い、それが文化になるような仕組みをつくり、それを全国に広げていけるよう頑張りたいです。